



成果指標				
成果指標	一日平均利用者数を100人以上とする。			
指標設定の考え方	利用実績を踏まえつつも、増え続ける高齢者人口に比例する利用増加をめざす。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	
目 標	105人	100人	100人	0
実 績	96.3人	98.6人	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	昨年度より利用者延べ人数が増え1日平均利用者数も増加した。今後は、平成27年度建設予定の高齢者福祉施設への移転等をスムーズに行い、高齢者が利用しやすい施設運営を行っていく必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	利用人数も増加し、事業が順調に推移している。関係機関と連携を取りながら、平成27年度に開設される新しい老人福祉施設に事業が円滑に移行されるよう努めて欲しい。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。
意見、課題	新たな高齢者福祉施設への事業移行、施設運営が円滑に行なえるよう配慮する。

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

下記の点を見直しの上、継続する。

意見、課題

二次評価の内容を踏まえ見直すこと。